

●指導計画

- ◆学 年 第2学年
- ◆主題名 郷土の伝統と文化の尊重，郷土を愛する態度【C(16)】
- ◆ねらい 地域の一員として，よりよい地域社会の実現のために，地域の行事や活動に積極的に参加し，互いに協力し合おうとする意欲と態度を育てる。
- ◆資料名 「和樹の夏祭り」 出典（中学校 心の元気Ⅱ：広島県教育委員会）
- ◆学習指導過程

	学 習 活 動	指導上の留意点 (◇) 主な発問(○), 中心発問(◎), 予想される反応(・)	評 価 (評価方法)
導 入	1 総領で行われている祭りについて思い出す。	◇写真を見せながら思い出させ，総領町の良さや魅力に気付かせる。 ・おいでん祭 ・節分草祭 ・とうろう菓子 * 参加や経験をしてみて，印象深かったことは？	
展 開	2 資料の前半部を聴き，場面状況と内容をとらえる。	◇和樹の地域の状況について整理する。 ◇地域の夏祭りの中止が決定して以降の和樹の気持ちの変化をとらえさせる。 ・残念な気持ち ・もやもやした気持ち	*印は，切り返しなどの補助発問
	3 資料後半部を聴き，和樹の気持ちの変化を考える。	◇和樹の地域と剛の地域の「夏祭り」の違いについて整理する。	
		○ 剛の「楽しんどるか？」に対して，和樹が「それはこっちのセリフじゃ」と言ったのはなぜだろうか。 ・忙しそうにしていたから。 ・手伝いばかりで楽しいのか不思議に思ったから。 ・大変そうで楽しんでいるように見えなかったから。	グループワークで意見を交流し，思考を広げる
	○ 剛の言葉から，祭りに対する和樹と剛の気持ちの違いを考える。	* 剛は楽しんでなかったのだろうか？ ◇個人思考の後，班で互いの考えを交流させる。 ◇グループワークでは，友達の考えに対する他のメンバーの感想や思いまで表出させる。	・地域の一員として自覚をもち，地域のために何か行動を起こすことの価値に気付いている。 (ワークシート・発表)
	◎ 剛の「俺らの祭りじゃねえ」という言葉を聞いて和樹はどう思ったのだろうか。 ・今までの自分は，参加するだけで何もしていなかったことに気付いた。① ・自分の地域の祭りは「俺らの祭り」とは言えないと思った。① ・剛は自分たちの力で祭りを作り上げることの楽しさを知っているんだ。② ・仕事をすることで，達成感を味わっているなと思った。② ・剛たちみたいに，自分も地域の祭りを楽しむために何かできるのではないかと気付いた。③	生徒の反応予想 →三段階で整理 ①自分中心 ②相手，対象との関わり ③集団，社会との関わり	
	意図的指名で価値を深める	◇机間指導の際に意見を見取り，①～③の三段階で整理する。 ◇全体交流では，①→②→③の順に理由を尋ね，より広がりのある思考につなげていく。	
	4 節分草保存会の方のビデオレターを見る。	◇祭りの主催者や節分草保存会の方の思いをビデオレターを通して伝える。 ・地域の祭りに参加してくれていることに対する感謝と，今後への期待	地域の方の生の声を聴く
終 末	5 学習のまとめをする。	◇節分草祭でボランティアガイドをした経験を想起させる。 ◇授業を通して，わかったことや思ったことを記述させ，発表させる。	